



↑ 第 11 回高国研セミナー『授業基礎講座』での一コマ

第 11 回高国研を終えて

高国研会長（北海道帯広三条高等学校長） 合浦 英則



コロナ感染症が5類移行になり、日常をようやく取り戻した令和5年度ですが、インターネットが36年振りに北海道開催となったことから、第11回高国研セミナーは9月開催とさせていただきました。この時期は部活動の様々な大会が開催される時期であり、参加がかなわなかつた方も多くいらっしゃったことだと思いますが、このような事情ですので何卒ご容赦願います。

さて、私自身は高国研が発足した3年目と4年目の2年にわたって事務局長を務めさせていただきました。当時の大山会長は、「高国研の会員登録と参加人数が減少するのであれば、会の消滅もやむなし」と訴える一方で、高校国語教育の研修の場として魅力ある場たらんとワークショップ中心の、先生方が本当に学ぶことのできる場へと改善を進め、ほぼ現在のスタイルが確立されたのです。そして結果的に会員数も大幅に増やすことができました。しかしながら、

高国研は今また、コロナ禍による会員数の減少という現実がつきつけられています。

それでも高国研の価値は何ら変わることはありません。お互いに国語教育について語り、学び合うことがそれぞれの力量を向上させる機会となることを信じてセミナーを企画しました。

今回、セミナーの開設にあたって意図したポイントは三つ。①特別支援教育の視点、②大学との連携、③地域教材とくにアイヌ文学の実践、でした。それぞれの観点から実践を発表していただきましたが、アンケートによれば、満足していただいている結果を得て、多少なりとも責任を果たした思いです。

教員を志望する生徒・学生が減少している中で、高国研が果たせる役割はますます大きくなるものと思います。高国研が北海道高校国語教育の柱となり、さらなる発展を続けていくものと確信しています。今後もご協力ををお願いします。

北海道高等学校 国語教育研究会

vol.11

2024.01.12

セミナー開設講座

【講座 A】伊達開来高校 小川耕平先生
「逆向き設計で学習指導要領を読み解いていく先にある授業づくり」

【講座 B】札幌国際大学 大村勲夫先生
弟子屈高校 池浦恵里先生 天売高校 岡本岳之先生 霧多布高校 島加奈先生
「漢文(漢詩)の読解に言語活動を取り入れてみよう!
～高大連携・複数校連携での単元デザインの取組～」

【講座 C】札幌東陵高校 細川昭彦先生
「ICT 活用事例とコツ 道立高校で無料で使えるサービスのいろいろ 2022」

【講座 D】石狩翔陽高校 島村直哉先生
「生徒の探究的活動とそれを補佐する教員の指導方法の提案」

【講座 E】紋別高等養護学校 高橋理人先生
「発達障害のある子どもたちが見えている世界～正しい理解と支援～」

【講座 F】石狩翔陽高校 小美濃今日子先生・仲尾光康先生
「教科横断をデザインする」

【講座 G】北海道武蔵短大 多田久実子先生
「面白くてためになって記憶に残る授業」を目指して」

【講座 H】帯広柏葉高校 戸川貴之先生
「アイヌ民族の文学作品を高等学校言語文化で扱うことについて」

【講座 I】帯広三条高校 佐藤俊介先生
「明日から活かせる授業のアイディア交流」

【講座 J】学校教育局高校教育課高校教育指導係
鎌田康平主査
「『観点別学習状況の評価』を極めよう!～意見交流・クイズ・好事例の紹介を通して」

アイヌ教材にチャレンジしてみませんか？

帯広柏葉高校 戸川貴之 教諭

「地域に根ざした教材を扱っている実践はないだろうか?」というリクエストから今回、帯広柏葉高校の戸川貴之先生の実践を発表していただきました。この実践は、前任の帯広北高校でのものだそうですが、アイヌ文学に触れたことがない者にとって大変新鮮で刺激的な内容でした。

まず生徒に「カムイ（神）に関するアイヌ民族の文学作品」をいくつか紹介した上で、最終的にアイヌ風の物語を創作させます。その際、4つの条件をつけます。

- ① アイヌ民族の名前を使う。
- ② アイヌ語の地名を使う。
- ③ カムイ（神）を登場させる。

④ 必ず寓意を使って教訓を示す。

生徒たちは書くために調べますし、逆に調べたことを書きります。そして最後に完成した物語をみんなで読み合うのです。

これらの作業を通してアイヌの文化、例えばカムイをとおして自然に対する畏敬の念をもって付き合おうとしていることや、アイヌ民族の名づけには意味があり、子どもには魔物から遠ざけるためにあえて汚いものの名前をつけることなどを知るようになります。

この実践を通して先住民族の文化を尊重する態度が育まれることを期待



していると戸川先生はおっしゃっていました。

セミナーを受講した方の感想

アイヌ文学に触れる機会がない生徒たちに、ただ紹介するだけではなく、物語創作という作業を通してアイヌ文化への興味を湧かせ、理解も進めることができます。「総合的な探究の時間」での応用もできると感じました。

高国研セミナー アンケートから

・今回はたまたま日程が悪かったのだと思います。毎回、選ぶのに苦労するくらいの魅力的な講座ばかりなので、参加が楽しみです。

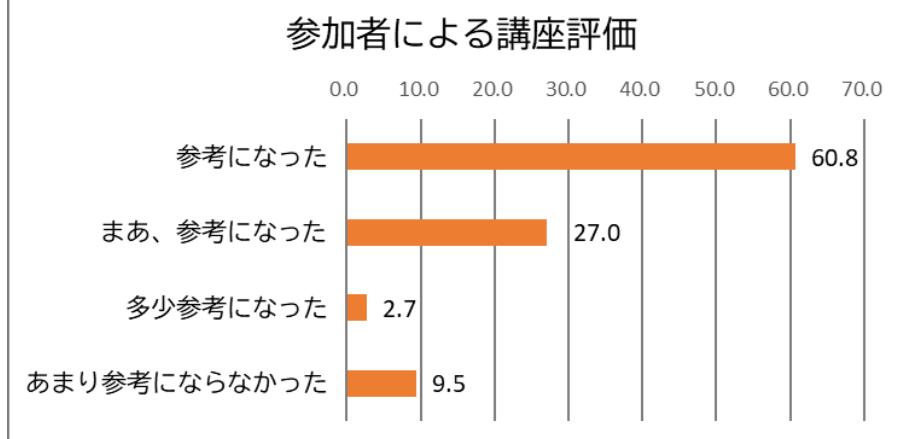
・参加者が少なくなっているような気がします。講座内容は授業に役立つので、もっと参加者が増えると良いと思います。

・「J」の評価基準がとても参考になりました。勘違いしている部分があったので、今後役立てたいです。「H」の講座では、生徒への古典の授業方法の参考になりました。「I」の講座では、アイヌの道徳観が不思議で面白かったです。

・10の講座の内容が多岐にわたっていたのでよいと思います。

・今回の講座設定のように次年度以降も多様なことが学べる設定であってほしい。

・講座A「逆向き設計で～」純粹に楽しかったです。授業のアイディアをいただきました。



・特定の講座に留まって参加することはできませんでしたが、紋別高等養護の高橋先生の講座や帯広柏葉高校の戸川先生の講座は新鮮な内容で多くの発見がありました。また、高校教育課の鎌田主査の講座では、重要な内容を分かりやすく提示していただき、管理職として多くの教員に受講してほしい講座でした。

・「ICT活用事例とコツ」自分の講座ですが、研究会の協議・演習という趣旨を理解していなかつたせいで、一人で喋り倒していました。

・バランスが取れていてよいかと思います。

・「B」の司会・運営を担当しました。生徒の立場になって問題を考えることができ、説明や資料の準備等も非常に分かりやすく、大変勉強になりました。

・どの講座も工夫があって良かったと思います。

多くのご意見ありがとうございました。よりよい高国研になるよう事務局・運営委員一同今後も努力してまいります。

◆予告◆

来年度の高国研は、例年通り8月第二週での実施を予定しています。詳細が決まりましたらお知らせします。